

小学校合唱指導講習会 広報



令和4年6月25日(土)、Zoomにて、令和4年度小学校合唱指導講習会が開催されました。約20名ほどの全道の小中学校の先生にご参加いただきました。事前に募集した質問をもとに、課題曲の指導の仕方や指揮法、声づくり、練習方法などについて、4名の講師の先生に教えていただきました。

♪Nコン課題曲講座「とどいてますか」



足立 教 先生

札幌市立美しが丘緑小学校 校長

- ・「こんにちは」や「明日に向かって」のように、歌詞が数回続く場合は、それぞれをどう歌うかを考えることが大切。
- ・ユニゾンはリズムと音程をしっかりと合わせる。
- ・「わたしのこえ」と「ぼくのこえ」の違いなど、言葉の意味をしっかりと考えて表現する。
- ・音程や音量が下がる時、響きも一緒に落ちていかないよう注意が必要。
- ・ニ長調は明るくパワーのある調。変ロ長調は穏やかでのびのびとした調。(のびやかに歌う時には、体を使って動きをつけて歌うと良い。) 変ト長調は不思議な調。別世界に行ったような浮遊感がある。それぞれの調の違いを感じ取って歌うと良い。
- ・「ホモサピエンス」のイントネーションは、「サ」の母音をしっかりと響かせることで表現することができる。
- ・言葉をはっきりさせるためには、子音だけに注目するのではなく、まずは母音で練習を。
- ・レガートは母音の響きを美しく。口の中を上げて歌うと良い。
- ・「ルラル」は、生きている幸せ感を音楽で表す。
- ・楽譜に書かれていることをよく読み、「なぜそうなっているのか」を考えて曲づくりをしていくことが大切。

- ・指揮者はいつも冷静に
 - ① よけいな力を体に入れない
 - ② 見やすく(動きは小さく)
 - ③ 無駄なく(打点を明確に)
- ・本番に向けて
 - ① あえてテンポや表情を変えて指揮をすると、子どもがしっかりと指揮を見る練習になる。
 - ② 児童に指揮をさせ、大人の指揮との違いを感じるようにする。
 - ③ 自分の指揮を児童の後方からビデオ撮影し、指揮を確かめることも大切。
- ・歌い始める前、子どもたちは息を吸って準備して待っている。空振りは長くならないよう注意。
- ・ブレスによって音楽が途切れないよう注意。ブレスの位置を子どもたちと確認しておく。
- ・転調する際、曲想が変わることや場面が変わることを意識し、表現の工夫(テンポなど)をする。
- ・52小節「いきています」のテヌート部分は指揮を分割して示すと分かりやすい。
- ・5は、ピアノと手拍子でしっかりと合わせて練習する。
- ・120小節以降、3拍子と7拍子が交互になる部分は、122小節の1拍目を合わせて。ゆっくりと練習する。



西野 誠一 先生

札幌市立札幌小学校 講師

♪合唱アラカルトコーナー

松澤 晃二 先生

札幌市立東川下小学校 校長



阿部 恵 先生

恵庭市立恵み野旭小学校 教諭

Q.合唱団や学級学年での声づくりや、合唱の輪の広げ方を教えてください。

松澤先生：お手本となる演奏(ウィーン少年合唱団や全国学校音楽コンクール金賞校の演奏など)をよく聴かせていました。子どもは真似をする天才です！

阿部先生：自然な発声を大切に。校内では、一般の子どもたちの良い歌声を聴かせたり、子どもたち同士が聴き合うようにさせたりしています。学校全体として歌声を育てていくことが大切です。

Q.アルトの音域を歌う時、どんな発声にしたらまろやかな歌声になりますか？

松澤先生：低い音域のパートを高い音域に移調して歌わせ、徐々にもとの音域に戻していくという練習方法があります。しっかりと立ち、鼻から上の空気を吸って、鼻から上に響かせるイメージ。上手な子の真似をさせるのも良い方法です。

阿部先生：中音域を出させるには、体の使い方が大切。手を使ったり床に寝転んだりして練習する方法もあります。

Q.パート練習の方法について教えてください。

松澤先生：指導の無いところに自主練習無し。やり方や気を付けることなど、一つ一つをしっかりと指導してから自主練習を。「任せる場面」と「任せられない場面」を分けて考えることも大切です。

阿部先生：パートリーダーはピアノを弾くことよりも、声でリードすることができるようになります。フレーズを抜き出して練習するなどの部分練習も。子どもが自主的に取り組めるよう関わることも大切です。

質問コーナーでは、調性のイメージが話題に。また、アルトの発声の指導法について、向出先生より教えていただきました。ありがとうございました。



講師の先生方、参加された先生方、ありがとうございました！